

## 予防接種のおはなし その2 ～同時接種について～

2014年版

大野先生の予防接種のお話の中でも同時接種のお話ができました。今回は、同時接種について、もう少し詳しくお話ししたいと思います。

生後6ヶ月くらいまで、そして1歳を過ぎたあたりはワクチンラッシュになりますよね。どのワクチンから接種したらいいか迷われている方も多いのではないかと思います。そんな時のひとつの解決法は同時接種です。

同時接種は同じ日に（同じ医療機関で）複数のワクチンを接種することです。それぞれのワクチンは混合することができないので、例えば3種類のワクチンを接種する場合は3本注射をします。

ワクチンの同時接種は海外では日常的におこなわれており、アメリカでは6種類のワクチンの同時接種をおこなっています。

日本の予防接種ガイドラインでは「あらかじめ混合されていない2種類以上のワクチンについて、医師が必要と認めた場合には同時に接種を行うことができる」と記載されていて、同時接種は法律上認められた方法です。日本小児科学会でも同時接種を積極的にすすめていく方針をとっています。

[http://www.jpeds.or.jp/saisin/saisin\\_1101182.pdf](http://www.jpeds.or.jp/saisin/saisin_1101182.pdf)

同じ日に複数の医療機関や接種会場で接種すること（同日接種）は、医学的には問題ないと考えられますが同時接種とは認められていません。

同時接種により、ワクチンの効果が弱まることはありません。また、副反応の程度も単独接種に比べて増強することはないと言われています。副反応の可能性（頻度）は足し算されますので単独接種よりやや多くなる可能性はありますが、私も含め、多くの小児科医が単独接種と変わらないという印象を持っています。また、同時接種でも副反応の多くは発熱や接種した部分の腫れなどで、重篤な合併症は増えません。

**黄熱病ワクチン《生》などの特殊なものを除き、ほとんどのワクチンは同時接種が可能です。**

1日で何種類ものワクチンを接種するのはお子さんの負担が大きいのではないかと考える方も多いと思いますが、大きな負担はなく安全にできると考えています。実際には1日に複数回針を刺すという負担はありますが、何回も来院してそのたびに痛い思いをするよりは1日で済むほうがよいかもかもしれません。また来院回数を減らすことは親御さんにとっても負担を減らすことになると思いますし、同時接種をすることで規定の接種を早く終わらせることができ、早く免疫をつけられるというメリットもあります。

お困りの場合はぜひご相談ください。同時接種も含めた予防接種のスケジュールを一緒につくってみましょう。もし、話を聞いてもどうしても同時接種が不安な場合は、単独接種でスケジュールをたてますので、遠慮なく医師に伝えてください。

また「VPDを知って、子どもを守ろう。」の会のホームページ (<http://www.know-vpd.jp>) は、ワクチンの情報がまとまっていてわかりやすいですし、スケジュール表も掲載されていますので、参考にされるとよいと思います。

2014年4月改訂  
高嶋 能文



たかしま よしふみ  
高嶋 能文

日本小児科学会小児科専門医  
日本血液学会血液専門医  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医  
日本医師会認定産業医

自由が丘メディカルプラザ 小児科

<http://www.jiyugaokamp.com>

TEL : 03-6421-1080

